

会社名：株式会社シムックスイニシアティブ
東京大学グリーンICTプロジェクト

受賞：マーケティング部会賞

概要

(1/4)

「特高受電システム」と「クラウド上の見える化システム」をEdgexcrossで繋ぐ東京大学への導入事例により以下の実績を挙げてEdgexcrossの普及に貢献した

**「技術的には小さな一歩でも、
マーケティングとしては大きな一歩である」**

市場としての実績

- ・ Edgexcrossの市場範囲を工場からビルやスマートシティに広げた事例

既存特高受電システムとEdgexcrossの連携の実績

- ・ 新旧システム間の連携が可能であることを証明した

クラウドとの連携としての実績

- ・ 国際標準通信仕様（IEEE1888）のゲートウェイソフトが認定商品に

メンバー企業間連携による実績

- ・ 三菱電機株式会社とGUTPの協力により実現できた

会社名：株式会社シムックスイニシアティブ
東京大学グリーンICTプロジェクト

受賞：マーケティング部会賞

事例詳細

(2 / 4)

①ユーザー企業の課題：

ユーザー企業は国立大学法人**東京大学**。

新キャンパス(柏Ⅱ)オープンにあたり、2011年導入の5キャンパス電力見える化システムに新キャンパスを組み込み**6キャンパス電力見える化システム**にしたいという要望があった。

本件を実現するに当たり、新キャンパスに導入予定の受電システムに追加開発を行うことなく、短納期かつ低コストで電力見える化システムに接続することが条件であった。

②当社の狙い：

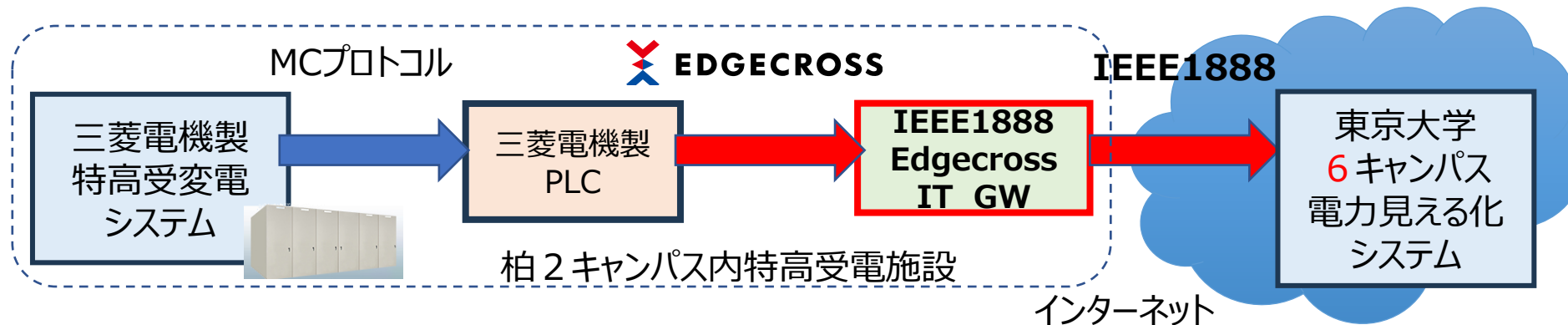
ユーザーからの要求事項を満たし、Edgecrossの**SIer**と**ベンダー**の両方を兼ね備える弊社の実力を示すこと。

併せて、Edgecrossの**工場以外の領域での実績事例**を作ることであった。

(3/4)

③ソリューションの内容：

「特高受電システム」と「クラウド上の見える化システム」をEdgexcrossで繋ぐ構想を提案。
弊社にて「**IEEE1888 Edgexcross IT GW**」の認定商品を使った特高受電システムに適用した。2020年12月末導入済。



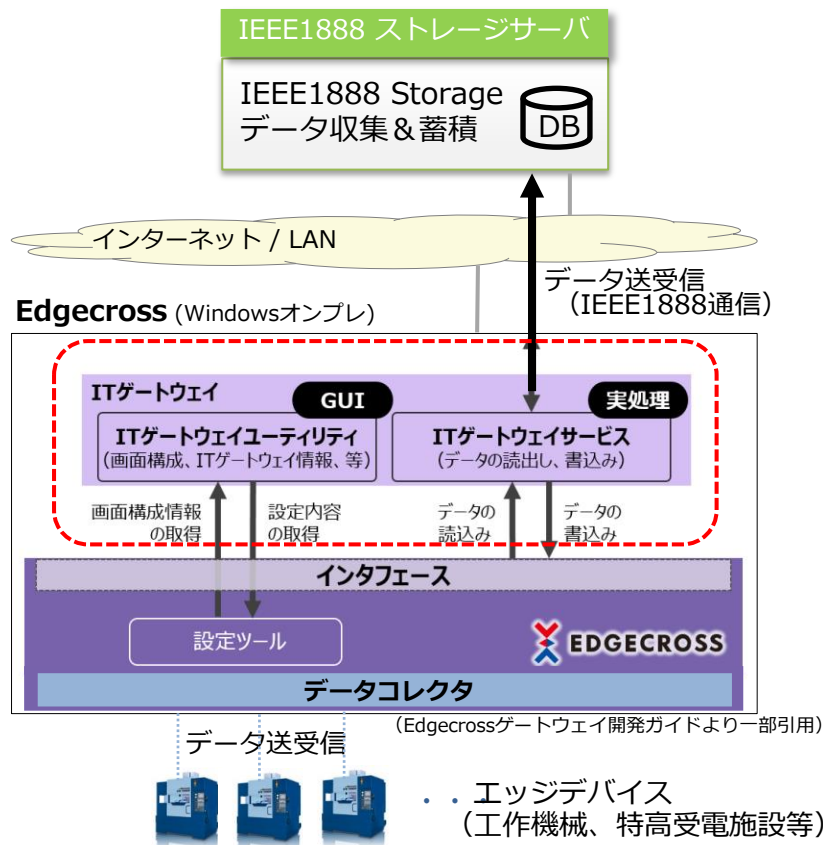
④導入の効果：

三菱電機－Edgexcross－IEEE1888をつなげることで、通常の開発(弊社想定:約1千万円、開発期間6か月)と比べ、**納期とコストを1/3で実現しコストパフォーマンスの優位性を証明した。**

Edgexcrossの仕組みを、工場だけでなく建物の省エネなどにも応用できる可能性を示した。

(4/4)

ご参考) IEEE1888 Edgexcross IT ゲートウェイ



1. **Edgecross**とスマートビルディング向け**EMS(エネルギー管理システム)**との連携を簡単に実現する**ITゲートウェイ**
2. **Edgecross**基本ソフトウェアがインストールされた産業用PC上で動く**ソフトウェア**
3. 本製品の基本機能
エッジデバイス(工場内設備だけでなく、ビルの特高受電設備など)のデータを**Edgecrossデータコレクタ**経由で収集し、**IEEE1888**に変換してクラウド上のEMSに送信
 - ー取得したデータをそのまま送信する「**汎用モード**」
 - ークラウドシステムへ送信する際に電力量へ変換する「**パルスモード**」
4. エッジ・クラウド間連携で不可欠な**通信不良時の再送機能**なども実装

製品WEBページ <https://ecgw1888.sbbuildings.net/>